全国研広報チームニュースNo. 8
2025. 12. 1発行

FUKUOKA

第60回

全国学童保育研究集会in福岡

第60回全国研in福岡　たくさんの方の参加がありました

全国各地から

4362名

参加申し込みに向けて、地域での活発なお声がけに
ご協力いただきありがとうございました！

第61回全国研は山形県での開催です

来年！第61回全国研は**山形**にて!!

●開催日●

2026年10月31日(土)
11月1日(日)

●会場●

10月31日:やまぎん県民ホール、山形テルサ(山形県山形市)
11月1日:やまぎん県民ホール、山形テルサ、霞城セントラル、山形市中央公民館、
霞城公民館総合学習センター、山形市社会福祉センターファーラ(山形県山形市)

山形県学童保育連絡協議会会長　元木朗博

ほかの誰かとつながっていると感じられるあたたかさ、それを広げることによって得られる充実感。単に学ぶのではなく、学びあうことの大切さ。それらを体感できる研究集会にしたいと思います。

食べ物によって体がつくられるように、聞いた言葉で心はつくられ、語った言葉によって未来はつくられる。私たち大人の成長は、すなわち子どもたちの成長につながります。子どもたちがどのような思いで学童保育に帰ってきたとしても、それらを受けとめ、自らの生活の場としてとらえられるよう、「保護者・指導員・運営者・行政」がしっかりと向きあっていかなければなりません。

その意味でも全国研は大きな役割を担っています。ぜひとも皆さんで語りあいましょう！

〝母なる川・最上川〟のほとり、「山の向こうのもう一つの日本」山形の地で皆様をお待ち申し上げております。

福岡 第60回

開催地・福岡より
メッセージが届きました！

全国研 in 福岡を終えて　―つぎへの一歩を胸に―
佐伯純子（福岡県学童保育連絡協議会　事務局員・指導員）

学童保育に携わる多くの皆様と福岡の地で出会えたことに、心より感謝申し上げます。福岡での開催を応援してくださったすべての皆様、本当にありがとうございました。

「なんとか終わった～」「やれやれ」――そんな安堵の声が思わず漏れるほど、走り抜けた日々でした。いまは、反省や課題をいったん横に置き、ホッと一息ついているところです。

今回の福岡での開催では、私たちは〝直接集うこと〟に強くこだわってきました。表情、その場の空気感、会場を満たす温度感――そうしたものを五感で感じることは、私たち大人が子どもと関わるときに大切にしている姿勢そのものです。会場で放映したウェルカムムービーも、子どもたちの日常の様子をお届けすることを大切に制作しました。子どもの表情、何気ない遊びの風景、指導員のまなざし……そのどれもが、学童保育の「かけがえのなさ」を語ってくれたと思います。

また、準備から当日までは、九州・沖縄の各県連協の皆様のお力をいただき、連携しながら、歩むことができました。ときにマンパワー不足に悩む場面もありましたが、それでも前に進めたのは、「やろう」「支えあおう」という思いが集まったからです。「終わりよければすべてよし！」「大変だったけど楽しかった」。そんな声が聞こえてきていることがなによりうれしく、次世代を担う若い仲間たちの姿も頼もしく映りました。

「つぎ、やるときはこうしたい」「つぎはもっとこうやって……」そんな〝つぎ〟への芽が、それぞれの心に生まれたことを信じています。また九州で開催できるよう、しっかりと力を蓄え、つぎの山形へバトンを渡したいと思います。

全国各地の仲間と共に学びつづけるこの連続性こそが、学童保育の未来を広げていくと心から願っています。

「成長したい！」という気持ちが高まる機会になりました
井藤夕楓（福岡県北九州市　広徳学童保育クラブ　指導員・大学生）

私は将来、小学校の先生になることをめざして学童保育でアルバイトをしています。今回、はじめて全国研に参加し、たくさんの学びと出会いがありました。「第19分科会　学童保育と学校――保護者と指導員と教師のかかわり」では、普段、私自身が関わっている子どもたちの姿と重ねあわせながら、全国各地の学童保育で働く方々の話を聞き、学校と学童保育のつながりについて深く考える時間になりました。

また、講師の谷口誠二先生のお話を通じて、昔に比べて学校の先生方も子どもたちも自由さや楽しさを感じにくい現状にあることを知り、学童保育が子どもたちにとって「ありのままの自分でいられる場所」であることの意味を強く感じましたし、他地域の参加者の方々と意見を交わすなかで、「私自身もその一員として成長したい」という気持ちが高まりました。これからも学童保育で経験したことを大切に、子どもたちに寄り添える先生をめざして学んでいきたいです。

三多摩 第60回

参加者より
メッセージが届きました！

あらためて、課題に気づくことができました

（東京都小金井市・保護者）

[全体会の感想]

ほいく誌普及のための寸劇、歓迎行事の赤間太鼓、博多よさこい連の演技、最高でした！

[分科会の感想]

「第20分科会　子どもの気持ちに気づく――家庭で、学童保育で」に参加。全国各地の指導員さんが、子どもとしっかり向きあい、家庭や学校での出来事もふくめて子どもを丸ごと受けとめようとしてくれていることを知れて、救いになった。そんな指導員さんの思いを挫く「大規模化」「人手不足」は大いなる悪で、致命的な問題を引き起こしかねない……との思いを強くしました。

[次回開催地・山形へのメッセージ]

期待しています！　1人で何役も担うのではなく、さまざまな人が共に運営に関わってくださると、〝みんなで取り組んでいること〟が見えて元気をもらえます！　山形は、大規模化の課題に取り組んできた経験が豊富だと思います。大規模化の問題点を、ぜひ全国各地の学童保育関係者に知らせてあげてください！

たくさんの学びと感動をもらいました！

（東京都小金井市・保護者）

[全体会の感想]

毎年11月に開催される大相撲九州場所と同じ会場での開催におどろきました！　学童保育をめぐる問題・課題について、自分の知識不足を痛感しました。この貴重な機会を学びの場として受けとめ、はじめて参加させていただきました。私は聴覚に障害を持っており、不安もありましたが、参加できて本当によかったです！

全体会での特別報告や基調報告、記念講演を通じて、新たな視点を得ることができ、とても充実した一日を過ごしました。月刊『日本の学童ほいく』普及の寸劇や歓迎行事の赤間太鼓、博多よさこい連のパフォーマンスがすばらしく、感動的で、多くのパワーと元気をいただきました。ありがとうございました。

[次回開催地・山形へのメッセージ]

私の住む東京から山形までは比較的、距離も近く、アクセスも良好です。歴史と自然に恵まれたすばらしい場所だと思うので、全国各地の仲間たちにもぜひ、もっと多く参加していただきたいです。

直接集い語りあう効用をあらためて……

（東京都清瀬市・保護者OB）

［分科会の感想］

「第12分科会　指導員の専任・常勤・複数体制、労働条件（A）」に参加しました。学童保育の現場で、指導員の専任・常勤、複数体制を確保すべきことについては、参加者の誰もが異論のないところ。子どもたちのためにも、指導員のためにも、必要な配置を確保できる職員体制を充実させること、就業を継続できる給与などの処遇改善、それを実現するための財政的裏づけ（行政からの補助金や保育料を含めて）について、各地域の実情を伝えあい、本音も交えた意見交換ができ、参加者それぞれに得るところがある有意義な分科会になったと思います。

多くの地域、学童保育の現場で、有資格の正規指導員が、運営のための事務作業に多大な時間と労力を要し、子どもへの関わりは非常勤やパートの職員に頼らざるを得ない状況になっていることは、大きな問題と感じました。

これまで、今回のような交流の機会がなかったり、オンラインを通じての参加だったという方々から、「直接集い、顔をあわせて語りあえてよかった」という感想が聞けたのはなによりでしたし、そうした機会の創出に全国連協がいっそう取り組み、全国各地の連絡協議会へも働きかけることを、とても期待しています。

［次回開催地・山形へのメッセージ］

各分科会の内容も含めて、今回の成果や改善すべき点を十分に検討し、山形で参加の皆さんに、もっともっと役立つ集会になるよう、参加しやすい交流会運営など、開催地と全国連協の連携・協力が進むことを望みます。

会場参加ならではの体験ができてよかったです！

（東京都西東京市・指導員）

［全体会の感想］

数年ぶりに会場で参加させていただきました。特別報告で、指導員や保護者の方々の生の声を聞くことができて、とてもよい機会となりました。基調報告も、学童保育を取り巻く環境や情勢などについて、より理解を深める機会ともなりました。

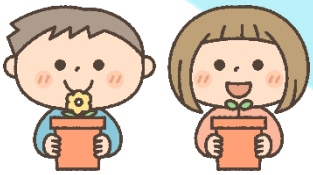
記念講演も、子どもたちにとっていまの社会がどんな影響を及ぼしているのか、子どもたちが自ら社会をつくるにはどうしたらいいのかということがよくわかる講演で、とても学びになりました。また、会場にて参加することで、会場の雰囲気やほかの指導員とも交流ができて、本当にいい機会となりました。歓迎行事では、福岡の文化に肌で触れることができ、会場参加ならではの体験ができてとてもよかったです。

［分科会の感想］

「第17分科会　子どもの権利を学ぶ」に参加し、子どもの権利について、映像やグループワークをとおして学ぶことができました。講師のお話を聞くことはもちろん、他地域の指導員の方と共に、子どもの権利について学びあうことができたことがよかったです。地域は異なっていても、どの指導員も子どもの権利について同じ熱量でとらえていることが感じられ、安心につながり、自信にもなりました。また、日々の実践で使えるあそびやワークも行うことができたので、これからの保育や職場でいかしていきたいと感じました。

［次回開催地・山形へのメッセージ］

コロナ禍には、大変なことがたくさんあったと思います。それでもここまでがんばりつづけ、山形で開催ができるようになったこと、本当にうれしく思います。これからの準備なども大変かとは思いますが、心から応援しています!!



兵庫

第60回

交流を通じてたしかめあい、さらなる前進を！

大田孝志（兵庫県学童保育連絡協議会事務局・神戸市・指導員）

私が参加したのは、「特設分科会（C）しゃべり場in全国研」。この分科会を選んだ理由は、全国各地の指導員仲間が日々、保育現場で直面するさまざまな課題にどのように向きあっているのか、なにを想い、なにを考え、なにを伝えあいながら保育しているのか、気になったからです。

当日は、子ども・保護者・指導員・学童保育、4つのテーマについて話を深めていきました。話しあいを通じて、これまで私が指導員として大切にしてきた保育観（「こころの距離感」「ていねいに寄り添うこと」「とにかく待つこと」「コミュニケーションをたくさんとること」「失敗してもいいよ」「保護者と一緒に子育てする場所ということ」「ほっと一息つける居場所づくり」「子どもが、学校の先生や保護者にも言えないことが言える場所」など）に大きく乖離することがない状況があることを確認でき、安心しました。

また、分科会を通じて他府県の指導員と「気づきのキャッチボール」をする場面がたくさんありました!!　私自身、指導員歴は20年を超え、立場的にも経験を重ねた立場になりつつあります。「『話を聞いてもらう側』から『話を聞く側』になってきたなぁ」ということも実感し、「継続は力なり!!」と……あらためて。そして現状維持ではなく、常に探究心・向上心を持ちつづけながら、「子ども・保護者にとってよりよい保育」を実行していきます。

今回、第60回全国研in福岡へ参加できたことが大変ありがたく、そして恵まれた環境で勤務できていることへの感謝しかありません。皆さん、ありがとうございました。

夫婦ではじめて全国研へ

池田正子（兵庫県学童保育連絡協議会事務局・神戸市・保護者OB）

今回の第60回全国研in福岡は、私の学童保育活動の〝裏方〟である夫の全国研デビューの機会となりました。

出張で自宅には不在のことが多かった夫との子育てには、「社会的保育」は不可欠でした。「あなたのところは学童保育が必要だから、一緒につくろう」。わが子が学童期に入ったとき、保育所の頃の仲間に誘われた私は迷いなくその話に乗り、「第3の居場所」に親子共にひたりました。

私は全国研のプログラムを見ていると、「法の下の平等と人権」をまもることの大切さ感じます。子どもの未来への大人の役割を再認識するよい機会とも思います。

全体会は海に開かれたような会場で、分科会は緑豊かな福岡大学で、のびのびと学びを楽しみ、家族間の対話も増えました。本当にありがとうございました

宮城 第60回

さまざまに学んだことをこれからにいかして……

久保新也（宮城県）

全体会会場では、九州各地の学童保育の様子を写真と共に紹介するボードが飾られており、全体会前にムービーが放映され、よかったです。

記念講演で松田洋介先生は、学校が多忙になっている様子を紹介され、子ども同士がつながれなくなってきている。学童保育は関係性をつくったり、一緒に同じことができたりする貴重な場……ということをお話しされました。また、流行も多様化しているとのお話も聞き、「同じ経験を大切に、仲間としていられる関係性をつくっていきたいな」と思いました。これからも、異なる年齢の子どもたちが共に過ごす生活のなかで、それぞれの意見を聞き、主体的に活動できる場である学童保育をよりよいものにしていきたいです。

分科会は、「特設分科会　学童保育の防災～災害への備えを考える」に参加しました。日頃の関係性や上の学年の子どもたちがリーダーシップをとれる学童保育だと、いざというときにも力を発揮してくれること。地域の方々とも顔の見える関係を築けていると、なにかあったら助けあい、協力しあえる関係につながることを学びました。

東日本大震災から年月が経ったいま、あらためて、いざというときのシミュレーションや必要なものを再度確認したいと思いました。分科会内で実際に行った、地震が起きたときのシミュレーションはぜひ職場でも取り組んでみたいと思います。

自由に自己を表現できる場であることを願って

阿久津泰彦（宮城県・指導員）

学校では現在、どのような教育が行われているのか知りたくて、オンラインにて「第22分科会　子どもの発達と学力」（講師：神代健彦先生）に参加しました。事前に配布された資料を読み、そこに記された「小さな経済人」という言葉に強く惹かれ、どのような話が聞けるのか期待していました。高度経済成長期から現在に至るまで、学校教育は形を変えつつも、国家や経済界と深く関わりつづけています。講義を聞き、子どもは成長と共に新たな労働力として再生産される社会の一部となり、「小さな経済人」として生きざるを得ない存在なのではないかと感じました。だからこそ、学童保育はそうした枠組みから子どもをひとときでも解放し、自由に自己を表現できる場であってほしいと強く願います。

岡山 第60回

私にとって、特別な時間となりました

杉山瑠唯（岡山県津山市・アルバイト指導員）

私は小学生の頃、〝津山北小ひなづる児童クラブ〟の一員として、第48回全国研in岡山（2013年開催）の歓迎行事で、県内の仲間たちと舞台に立ち、歌やダンスを披露しました。踊ることに夢中だったあの日から時が流れ、2024年に開催された第59回全国研in岡山の折には、アルバイト指導員として歓迎行事を披露する子どもたちの引率をし、自らも分科会に参加しました。子どもの成長によろこびを感じ、ときには悩み、寄りそう指導員の先生方の姿に、胸を打たれる日々をおくっています。

2025年は、第60回全国研の福岡会場へ、保護者の方と子ども時代からお世話になった指導員の先生方と共に車での長旅。全体会会場に入った瞬間に、過去の感動が甦りました。

2日目は「第19分科会　学童保育と学校――保護者と指導員と教師のかかわり」に参加。来春から教員となる私にとって、多くの学びを得ました。学童保育は、家でも学校でもない、子どもたちが自分らしく過ごせる大切な居場所。そう願っていた私の思いはさらに深まり、学校と学童保育との連携の課題にも気づかされました。あの日、舞台に立っていた私と、いま子どもたちを見守る私が、静かに手を取りあったような特別な時間となりました。

「参加してよかった！」と心から思えました

塚本 陽依吏
（岡山県倉敷市　NPO法人くらしき放課後児童クラブ支援センター
とみた児童クラブ　指導員）

私は指導員1年目。全国学童保育研究集会に参加させていただき、2日間でさまざまな観点から学童保育、子どもについて学ぶことができました。全体会の記念講演を通じて、しばしば取り沙汰される「子どものイメージ」と「現代を生きる子どもの姿」を比較し、〝大人視点というフィルターをかけて子どもを見ることへの危機感〟を感じました。目の前にいる子どもの姿に向きあい、いまを生きようとしている子どもたちにどんな支援が必要かを柔軟に考えることが必要であると再認識しました。

分科会では、グループワークを通じて、子どもは生活や遊びのなかでどんなときに幸せを感じているのかを検討・追求しました。グループワークで共に話しあった指導員の方々の多彩な感性を間近で感じることができ、さまざまな角度から「しあわせとは・楽しさとは」を考えることができました。全体会・分科会ともに、「興味深い！　おもしろい！　もっと詳しく聞きたい！」という感情があふれ、非常に充実した時間でした。

はじめて参加した全国研。「参加してよかった！」と心から思えました。当日までの準備、当日の運営に携わった皆様、ありがとうございました！

2日間の模様は、月刊『日本の学童ほいく』2026年2月号（2026年1月15日発売）に掲載予定です。 お楽しみに♪

「来年秋、第61回全国学童保育研究集会でお会いしましょう！」

開催地は、**山形**です。ぜひ、ご予定ください！

＊詳細は月刊『日本の学童ほいく』でお知らせします。

第60回全国学童保育研究集会
お問い合わせ先

【集会事務局】
全国学童保育連絡協議会

03-3813-0477
（10時～17時。土日祝日休業）

d60zkk@xvg.biglobe.ne.jp

http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/zenkokuken/d60/

全国研広報チームより

広報チームニュースNo.8まで発行できました。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

第60回全国研に関する情報は「全国研特設サイト」

<Facebook>

<Instagram>